

令和元年

ローカルサミット NEXT in 南砺

開催の記録



令和元年10月26日(土) 城端別院善徳寺

27日(日) 南砺市城端伝統芸能会館じょうはな座

令和元年ローカルサミットNEXTin南砺実行委員会

目次

■全般

目次	P.1
開催ご挨拶	P.2
プログラム	P.3

■ 1日目（10月26日（土））のプログラム

基調講演	P.4
分科会一覧	P.5
第①分科会（土徳）の記録	P.6
第②分科会（農業）の記録	P.7
第③分科会（芸術・産業）の記録	P.8
第④分科会（林業・自然）の記録	P.9
第⑤分科会（地域教育）の記録	P.10
第⑥分科会（地域包括ケア）の記録	P.11
第⑦分科会（観光）の記録	P.12
第⑧分科会（基金・小規模多機能自治）の記録	P.13
第⑨分科会（IT）の記録	P.14
第⑩分科会（遊び）の記録	P.15
大懇親会	P.16

■ 2日目（10月27日（日））のプログラム

分科会報告	P.17～P.18
大討論会	P.19
南砺幸せなSDGs志民憲章提案	P.20
南砺幸せなSDGs志民憲章	P.21

■令和元年ローカルサミットNEXTin南砺を終えて

報道の記録	P.22～P.23
令和元年ローカルサミットNEXTin南砺を終えて	P.24

開催ご挨拶

地方の時代が来たと言われた平成の時代は、戦後復興を遂げた昭和の恩恵により人口増加と経済成長が、社会の好循環を生み出しているかのように見えました。しかし、実際は東京を中心とした一極集中がますます加速することにより地方との格差が広がり、地域は独自性を失い、結果としてこれまで経験したことがない人口減少社会へと突入していくことになりました。

今、令和という新しい時代が幕を開け、これまでのように「誰かが何とかしてくれるだろう」「行政が何かをしてくれるだろう」という他人事の意識では、地方の衰退を止めることはできません。私達自身が「次世代のために今すべきことは何だろうか」と主体的に考え、行動し、確かな礎に基づいた明るい未来を自らつくり続ける原動力とならなければなりません。

南砺市や全国の各地域では、この危機感を肌で感じ、自ら動き出す志民が生まれ始めています。明るい未来に向けて、地域を今一度見つめ直し、本物の人の力に光をあて、力強く歩みを進めていかなければならないのです。

8年前にはローカルサミットが南砺市で開催され、循環型社会の構築に向けた新たな取り組みが生まれました。そして、今回が2回目の開催となるローカルサミットNEXTを南砺で開催させていただくことになり、私たちの地域は新たなステージを迎えるチャンスをいただきました。幸いにも南砺市には、これまでの人々が培ってきた「土徳」の心や文化、深い信仰心、合力の精神、という地域の地力も同時に備わった地域です。それは南砺の雄大な自然が培った偉大なる生命の力の表しです。その力を宿した志民は、目の前の利益や損得勘定が優先されてしまう常識ではなく、ここに集う全国の同志と力を合わせ、世界の資本主義に飲み込まれることがない新しい常識をつくりあげ、文化継承を軸足とした日本の誇るべき「一流の田舎」の実現を目指し行動します。

令和という新時代が「地方が輝く時代」となるように、ともに力強く歩みを進めていきましょう。

令和元年ローカルサミットNEXT in 南砺

実行委員長 島田 優平



プログラム



10月26日(土) 城端別院 善徳寺

- 11:00~12:30 エコビレッジ関係施設見学ツアー
ペレット工場、桜ヶ池クアガーデン、合掌かず良
- 14:00~14:10 開会宣言・挨拶
- 14:10~15:55 南砺の取組み紹介と基調講演
・田中 幹夫 氏（南砺市長）
テーマ：エコビレッジ構想からSDGs未来都市への歩み
・太田 浩史 氏（大福寺住職）
テーマ：一流の田舎と土徳文化の継承
・中井 徳太郎 氏（環境省総合環境政策統括官）
テーマ：一流の田舎と地域循環共生圏の意義
・藻谷 浩介 氏（(株)日本総合研究所主席研究員）
テーマ：南砺は一流の田舎になりうるか
- 16:00~18:00 分科会
10の分科会に分かれ、市内外のパネリストによるプレゼンテーション
その後、メインテーマである「世界に誇る一流の田舎」について
各テーマの視点から意見交換
- 18:10~20:10 大懇親会

10月27日(日) 南砺市城端伝統芸能会館 じょうはな座

- 9:00~10:00 分科会報告等
分科会の内容について報告（10分科会）
- 10:10~12:10 大討論会
分科会報告を踏まえ、「南砺幸せなSDGs志民憲章」について議論
登壇者：市内6名、市外6名
- 12:10~12:20 南砺幸せなSDGs志民憲章 提案
- 12:20~12:30 挨拶・閉会宣言
- 13:30~16:50 南砺市内視察ツアー
①南砺の遺産コース
城端曳山会館、(株)松井機業、井波街並み散策
②南砺の民藝文化コース
福光美術館、光徳寺、大福寺

基調講演

南砺市長 田中 幹夫 氏



住んでいる地域の“将来ありたい姿”をイメージし、この10年で“やるべきこと”を自分ごととして考えてみよう！

環境省総合環境政策統括官 中井 徳太郎 氏



地域資源を活かし、自立・分散型の社会を形成しつつ近隣地域と補完し、支え合うことで地域循環共生圏が創造される。

多数の参加者



4名の皆様に講演いただき、「世界に誇る一流の田舎」へのヒントをいただきました。

大福寺住職 太田 浩史 氏



人を蘇らせて元気にする力が土徳であり、人と人とのつながりが重要。

(株)日本総合研究所主席研究員 藻谷 浩介 氏



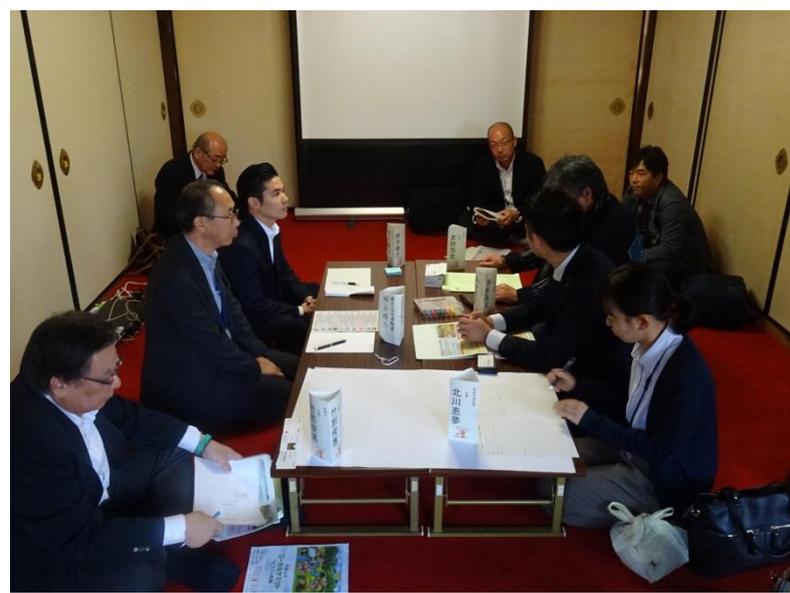
そこに暮らす理由を堂々と説明できる人々が住んでいるのが「一流の田舎」。住んでいる人の“住む理由”を良いものにしていこう！



メインテーマ 「世界に誇る一流の田舎」とは

第①分科会	一流の田舎には 一流の精神文化が(土徳)
第②分科会	田舎の風土を 農業で守り続けるには(農業)
第③分科会	田舎が守り繋ぐ 芸術文化、手仕事と産業(芸術・産業)
第④分科会	一流の田舎が 森から里川海を守る(林業・自然)
第⑤分科会	優れた田舎のDNAを 地域の若者たちが引き継ぐ(地域教育)
第⑥分科会	誰一人も取り残さない 優しい地域を取り戻すには(地域包括ケア)
第⑦分科会	本物で勝負する 田舎観光を考える(観光)
第⑧分科会	田舎を支える ローカルファイナンスと小規模多機能自治 (基金・小規模多機能自治)
第⑨分科会	情報と5Gで 田舎が東京を超えて世界とつながる(IT)
第⑩分科会	一流の田舎を みんなで楽しむ方法(遊び)

一流の田舎には 一流の精神文化が(土徳)



■登壇者

パネリスト<市内>

太田 浩史 氏 (大福寺住職)
竹部 俊恵 氏 (妙蓮寺住職)

パネリスト<市外>

鈴木 健介 氏 (楽天勤務)
梶谷 俊介 氏 (岡山トヨタ自動車(株)代表取締役)

モデレーター・記録担当

得能 基史 氏 (南砺市文化・世界遺産課主事)
北川 恵夢 氏 (南砺市福祉課主事)



■分科会での意見・キーワード

- ・ 一流の精神文化は既にあるが、気づいていない。
→ 市民に伝えるための場づくり、世代間や他地域との交流づくりが必要。
- ・ 課題の共有 (一緒に考える機会) により、子ども、大人の課題となり、土徳文化の学び、継承になる。
- ・ 外部から来てもらうことで、気づき生まれる。
- ・ どうしてその地域に住んでいるのかを語れるかどうか。
- ・ 仕事の尊厳
→ 仕事を通じて学んでいく。いかに誠実に向き合うか。
- ・ 一流の精神文化を伝えていく人が減っている。強めるためにはどういうやり方があるか。
- ・ 助けてと言うことで役割生まれる。
→ みんなで協力して、よい地域を作っていく。

田舎の風土を 農業で守り続けるには(農業)



■登壇者

パネリスト<市内>

吉田 剛 氏 (株)国際有機公社代表取締役社長)

高桑 健 氏 (タカクワファーム)

エコビレッジ部活動の生徒 (南砺福野高校)

パネリスト<市外>

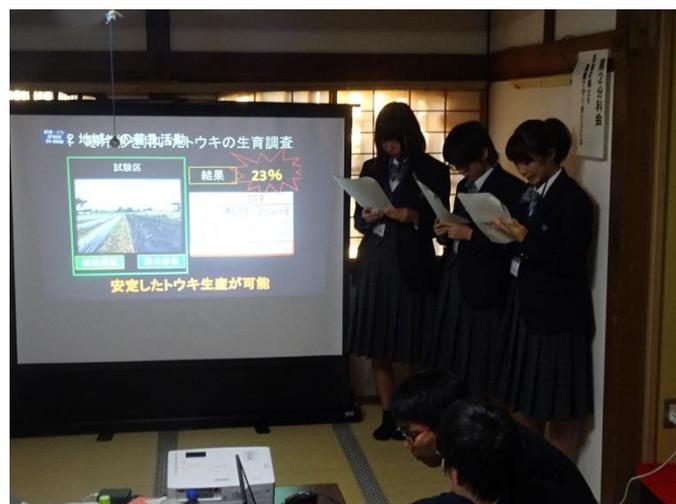
増田 渉 氏 (畑の自由研究所)

今井 良治 氏 (ローカルサミット事務局長)

モデレーター・記録担当

大橋 祐介 氏 (南砺市農林課主事)

高桑 里沙 氏 (南砺市農林課主事)



■分科会での意見・キーワード

- ・地域で認め合える(褒め合う)農業。
 - 自分が作ったものの価値、良さに自信を持つ。(意識化、活性化)
- ・観光農業(エンターテインメント農業)を通じて情報発信。
 - 体験活動や本当においしいものに出会う場、機会を作っていく。
 - すでに光っているすばらしいものをどうPRするか。
- ・若い世代の就職先に選ばれるような農業組織、新規就農者へつなげる。
 - 収益を上げ給与を高く。
 - ロボットや農業ICT、科学的技術を活用。
 - 農家は大変、稼げないというイメージの払拭。
- ・時代に合った農業を地域ぐるみでマネジメントする。
- ・市外の人しか気づかない良さが、硬直した地域の伝統にとらわれないクリエイティビティにつながる。
- ・クオリティの高さ、またそれを裏付けるビジョンに観光客は共感する。
- ・ありふれたものが実はすばらしい。それに触れ合える機会を作る。

田舎が守り繋ぐ 芸術文化、手仕事と産業（芸術・産業）



■登壇者

パネリスト<市内>

小原 治五右衛門 氏（城端蒔絵十六代）
松井 紀子 氏（㈱松井機業6代目見習い）

パネリスト<市外>

戸田 鉄人 氏（渋草柳造窯 7代目）

モデレーター・記録担当

高坂 博道 氏（南砺市文化・世界遺産課主事）
山田 雄大 氏（福光美術館主事）



■分科会での意見・キーワード

- ・南砺の伝統に誇りを持つ。
- ・南砺の伝統文化に触れ、その奥にある手仕事、伝統技術を感じ取る。
→まず大人が実行することで、自然と子どもにも伝わる環境ができる。
- ・祭りの道具一つをとっても、その奥には何層もの努力や美が積み重なっている。
- ・大人が楽しむことによって、それが作品にも現れるし、子どもにも伝わる。
- ・子どもには南砺の伝統のものに触れてほしい。
（学校の運動服や食器、校舎などに手仕事が使われてほしい）
- ・いま南砺市にある伝統をしっかりと引き継いで磨き上げていくことが大事

一流の田舎が 森から里川海を守る(林業・自然)



■登壇者

パネリスト<市内>

- 島田 優平 氏 (株)島田木材常務取締役)
- 江尻 美佐子 氏 ((一社)森のくらし研究所代表理事)
- 山崎 正治 氏 (自遊の森支配人)
- 佐々木 利幸 氏 (佐々木寺社建築(株)代表取締役)

パネリスト<市外>

- 佐藤 岳利 氏 (WISEWISE社長)

モデレーター・記録担当

- 竹田 健悟 氏 (南砺市農林課主事)
- 小西 和俊 氏 (南砺市農林課主事)



■分科会での意見・キーワード

- ・市場と川上・川中・川下がつながることが重要。また、人と森、くらしと森がつながることが重要。
- ・小さい頃から“木”の素晴らしさを実感してもらうことが、将来の木材利用推進につながる。遊び等を交えた“地域の英才教育”が大事。
- ・“当たり前”を見直し、サービスのクオリティ向上や「“良いもの”を売る」ことを目指す。
- ・自然資本の活用として「サステナブル調達」に取り組むなど、低炭素社会の実現に取り組む。
- ・「一流の田舎」を実現するためには、市民が「ここが自慢」と誇りを持ち、豊かに生きることが重要。
- ・地域への“愛”を持ち、地道に“共感”できる仲間の輪を広げていくことが実現への第一歩。
- ・森や、そこに関わる“人”、過去、未来がつながり、循環していくことが、持続可能な循環型社会の形成と、里川海を守ることにつながる。

優れた田舎のDNAを 地域の若者たちが引き継ぐ(地域教育)



■登壇者

パネリスト<市内>

- 松井 昌美 氏 (南砺市教育センター)
- 木下 三喜子 氏 (だれでもハウス"めぐみ")
- エコビレッジ部活動の生徒 (南砺福光高校)

パネリスト<市外>

- 鬼頭 秀一 氏 (星槎大学副学長)
- 室 貴由輝 氏 (やかげ小中高こども連合)

モデレーター・記録担当

- 岡本 真奈 氏 (南砺市生涯学習スポーツ課主事)
- 竹原 春佳 氏 (南砺市生涯学習スポーツ課主事)



■分科会での意見・キーワード

・大人の意識改革

- 子どもたちは保育園や学校だけで育てられるのではなく、生まれる前の家庭環境や、その後の地域や人とのつながりで育まれていく。
南砺にはリアルとホンモノの体験ができる素材が豊富にある。
- 当事者意識を持つこと。地域の住民1人1人が次世代を担う子どもたちを育む一員。

- ・子どもが実現したい、やってみたいと思うこと、子どもにしかない視点がある。
実現できるように大人が支える環境をつくり、子どもが大人を巻き込んで動かしていく。
- ・子どもは環境を選べない。どの子にも育つための環境づくりを。
- ・子どもの多様性を受け入れ、人との関わりの中で生きていく環境が重要。
- ・テクノロジーを地域にどう取り入れ、どう使うのか。
リアルの部分で南砺を使うことで、地域の次世代を担う人材を南砺で育成することができる。

- 「子どもの学び」と「大人の学び」による循環型の教育。

誰一人も取り残さない 優しい地域を取り戻すには(地域包括ケア)



■登壇者

パネリスト<市内>

- 南 眞司 氏 (南砺市政策参与)
- 中山 明美 氏 (ほっこり南砺代表)
- エコビレッジ部活動の生徒 (南砺福野高校)

パネリスト<市外>

- 清水 昭 氏 (NPO法人健康医療開発機構理事)
- 山中 千花 氏 (トヨタ財団)

モデレーター・記録担当

- 早川 萌 氏 (南砺市地域包括ケア課 社会福祉士)
- 戸田 恵理子 氏 (南砺市医療課主事)



■分科会での意見・キーワード

- ・ 幸せ
 - 居場所づくり、人とのつながり、生きがいづくり、人の役に立つ喜び、自立支援と自尊心の尊重。
- ・ 移動手段
 - 乗り合い (その地域、コミュニティに合った移動手段)
 - 手段だけでなく“目的”にもなる。
- ・ 本来の生き方
 - もとに戻る、手を当てる、共に生きる。
- ・ 高校生が出会いから気づいた3 K
 - 感謝、感動、可能性
- ・ 誰一人も取り残さない
 - 本人がどこでどう生きたいか。
 - 思いを代弁する人が必要、その仕組みづくりも必要。
 - 事例を増やして市民に伝えることで、自分ごととして考え、取組む人が増える。

本物で勝負する 田舎観光を考える(観光)



■登壇者

パネリスト<市内>

楠 順子 氏 (井波観光ガイド「井波の風」代表)
中西 邦康 氏 (民宿中の屋代表)

パネリスト<市外>

中安 俊之 氏 (オーベルジュ飛騨の森オーナー)
周 牧之 氏 (東京経済大学経済学部教授)

モデレーター・記録担当

嶋田 良太 氏 (南砺市交流観光まちづくり課主任)
松平 隆輔 氏 (南砺市上下水道課主事)



■分科会での意見・キーワード

- ・観光で稼ぐ人が少ない。
- ・“ほんまもん”は何か？共有する。
- ・当たり前なのが喜ばれる。
- ・外国人としてはおふくろの味が一流の味。
- ・口コミでリピーターがくる。
木彫り体験は一流の職人に指導いただける。外国人にとっては安いくらい。
- ・有機（オーガニック）の意味を理解し共有する。根拠が重要。
- ・観光は大きな産業なので、バカにしない。今やらないと来なくなる。
- ・インバウンドはいろいろな見方があるが、気づかせてもらえるチャンスである。
- ・自然そのものが「ほんまもん」。

田舎を支える ローカルファイナンスと小規模多機能自治 (基金・小規模多機能自治)



■登壇者

パネリスト<市内>

松本 久介 氏 (南砺市地域づくり協議会連合会会長)

吉澤 保幸 氏 (南砺市政策参与)

パネリスト<市外>

石田 秀輝 氏 (東北大学名誉教授)

山口 美知子 氏 ((公財)東近江三方よし基金常務理事)

モデレーター・記録担当

河合 幸樹 氏 (南砺市地方創生推進課主査)

嶋田 智志 氏 (南砺市建設課主任)



■分科会での意見・キーワード

- ・南砺の小規模多機能自治は、地域の課題解決に結び付く多面的な活動。従来バラバラだった組織を一本化して全員で取り組む仕組み。
- ・SDGsは地域で始めること。実は地域課題はSDGsの課題。
- ・お金がお金を回す時代ではない。地域の中でお金をどう回すか。
- ・基金は民芸、ものづくり、子どもたちの育成にも使っていける。健やかで美しい暮らしをどう次世代に繋ぐか。
- ・ソーシャルキャピタル=人と人との繋がり。外から稼ぎ、出ていくのを減らし、中にあるものを循環する。
- ・ブランディングが大事であり、ストーリーがあれば人は高くても買う。

情報と5Gで 田舎が東京を超えて世界とつながる(IT)



■登壇者

パネリスト<市内>

- 浅谷 一寛 氏 (となみ衛星通信テレビ(株)業務部次長)
松本 八治 氏 (code for nanto/株まとめる専門家代表)

パネリスト<市外>

- 金平 勲 氏 (北陸先端科学技術大学院大学 JAIST産学連携センターURA)
永森 茂 氏 (富山GRNサンダーバース代表取締役社長兼球団代表)
村松 一 氏 ((一社)リバースプロジェクト代表理事)

モデレーター・記録担当

- 富田 新之介 氏 (南砺市情報政策課主事)
武部 琢弥 氏 (南砺市上下水道課主事)

■分科会での意見・キーワード

- ・土徳とロジカルシンキングの融合。
 - 南砺市が世界をリードして早急に実現することが必要。
 - 「未来への投資」「基盤の整備」「ビッグデータの活用」
- ・未来への投資
 - 教育機関を誘致することで南砺市を知ってもらうことができる。
南砺市のために活動してくれる人材を産み出す。
- ・基盤の整備
 - 規制緩和を含めた、今以上に情報通信(5Gなど)を利活用できる環境整備が必要。
- ・ビッグデータの活用
 - 潜在的にあるデータを開放することで、門戸を広げて人材を受け入れやすくする。
- ・IT推進協議会(仮)を定期的を開催して、IT推進を実現する。
- ・南砺市が世界と差をつけられるのは、やはり土徳文化しかない。
土徳の文化を育てることは、南砺市を愛する人材を確保することにつながる。



一流の田舎を みんなで楽しむ方法(遊び)



■登壇者

パネリスト<市内>

北川 智之 氏 (福野家守舎代表)
山瀬 悦朗 氏 (株つなぐ南砺代表取締役)

パネリスト<市外>

後藤 健市 氏 (野遊びリーグ常務理事・事務局長)
福持 良之介 氏
(ONESTORY事業開発プロデューサー)

モデレーター・記録担当

浅田 和幸 氏 (南砺市交流観光まちづくり課主任)
村田 雄輔 氏 (南砺市井波行政センター主事)



■分科会での意見・キーワード

- ・遊びは根源的想像行為。
- ・田舎は何も無い！ではなくて「余計なものは何も無い！」
- ・自然と交流し、自然を感じる。
→ 自然と友になる。(本当の野遊び)
- ・そこにしかない個性、匂、衣、食、住を味わう。
- ・こんなすばらしい場所にいながら、アクションにつながっていない。
→ 現在の社会・文明に自分が閉じこもったり、子どもを閉じ込めたりして、良さに気づいていない
→ 我々の課題は「自然を感じる」こと。
- ・気づかせるため、自然を大事にするだけでなく感じようとするれば、良さに気づく。
→ 人とのつながり、仲間ができる。代々つなげていく役割を感じる。

大懇親会



分科会報告



第①分科会 (土徳)
太田 浩史 氏 (大福寺住職)



第②分科会 (農業)
吉田 剛 氏 (株)国際有機公社代表取締役社長)



第③分科会 (芸術・産業)
小原 治五右衛門 氏 (城端時絵十六代)



第④分科会 (林業・自然)
竹田 健悟 氏 (南砺市農林課主事)



第⑤分科会 (地域教育)
室 貴由輝 氏 (やかげ小中高こども連合)



第⑥分科会 (地域包括ケア)
早川 萌 氏 (南砺市地域包括ケア課社会福祉士)

分科会報告



第⑦分科会（観光）
嶋田 良太 氏（南砺市交流観光まちづくり課主任）



第⑧分科会（基金・小規模多機能自治）
河合 幸樹 氏（南砺市地方創生推進課主査）



第⑨分科会（IT）
富田 新之介 氏（南砺市情報政策課主事）



第⑩分科会（遊び）
オリヤンハイ ムルン 氏（千葉大学）

各代表者から、白熱した分科会の内容について報告をいただきました。

大討論会



市内パネリスト	市外パネリスト
島田 優平 氏 (令和元年ローカルサミットNEXTin南砺実行委員長)	石田 秀輝 氏 (東北大学名誉教授)
川合 声一 氏 (前回(2011年)ローカルサミットin南砺実行委員長)	山口 美知子 氏 ((公財)東近江三方よし基金常務理事)
太田 浩史 氏 (大福寺住職)	大原 あかね 氏 (大原美術館理事長)
松本 久介 氏 (南砺市地域づくり協議会連合会会長)	梶谷 俊介 氏 (岡山トヨタ自動車(株)代表取締役社長)
吉田 剛 氏 (株国際有機公社代表取締役社長)	室 貴由輝 氏 (やかげ小中高こども連合)
中山 明美 氏 (ほっこり南砺代表)	後藤 健市 氏 (野遊びリーグ常務理事・事務局長)

モデレーター：吉澤 保幸 氏 (ローカルサミット事務総長)

■みなさまから、さまざまなお意見をいただきました。

- ・顔が見える中での取組みが重要。
- ・団塊の世代が60歳代の間に、次の世代に地域社会を維持していくための体制、システムを再構築し、繋いでいかないといけない。
- ・人の幸せは豊かな人間関係から生まれる。
- ・地域の人々が地方創生の主役でないといけない。そのときには場所の力と人の力の両方が必要。
- ・SDGsはみんなが自分ごととして取り組む必要がある。

南砺幸せなSDGs志民憲章 提案



2日間にわたり多くの方に討論いただいた成果を「南砺幸せなSDGs志民憲章」としてとりまとめ、会場のみなさまから賛同いただき市長に提案しました。

南砺幸せなSDGs志民憲章

1【土徳】

私たちは、長い歴史の中で育まれてきたこの豊かな自然景観との共生を図りながら、健やかで美しい暮らしと祈り、そして常に感謝を絶やさない土徳文化を、しっかりと未来世代へ継承していくことが何よりも大切であると考えています。

2【農業】

私たちは、この豊かな農景観を未来世代に繋いでいくため、新しい経営の仕組みや技術を活用し、従来の取り組みを適切に見直しながら、地域の風土を活かしたいのちを育む農業を一層拡大し、次世代の担い手の育成と皆で誇りあう農の営みに努めていきます。

3【芸術・産業】

私たちは、日々の暮らしに根ざした多様な手仕事・モノづくりにこそ美が宿ると考え、南砺に根付く伝統芸能や祭りを子供たちと一緒に次世代へ継承するとともに、都市との交流によって新たな創造を図ることで、これらに関わる南砺の人材が多く育つよう努めていきます。

4【林業・自然】

私たちは、この自然がもたらす森里川海の恵みを最大限感じ、活用していくため、上流から下流までの担い手のネットワークを見える化すると共に、森を創り、森を活かし、森に育てられる森林価値の最大化を図ることに努めます。

5【地域教育】

私たちは、家庭、地域教育こそが主役であると大人たちの意識を変えて、先人が守り育ててきた地域のDNAを次世代に繋ぎ、子どもたちの郷土への誇りと愛着をもった豊かな心と知恵を育む、人づくりを目指します。

6【地域包括ケア】

私たちは、全ての老若男女がこの地に誇りを持ち、笑顔があふれ、健やかに暮らしていけるより優しい地域とするため、声を掛け合い、おかげさま、ありがとうを交し合える取組みと併せて新たな交通手段の構築を進め、誰一人取り残さない社会の実現を目指します。

7【観光】

私たちは、南砺にしかない一流の田舎の暮らしを観ていただくとともに、幅広い方々との多面的かつ持続的な交流を行うことで、地域の誇りの醸成、そして生活の質の向上につながるよう取り組んでいきます。

8【基金・小規模多機能自治】

私たちは、地域内分権を進め、住民自治の浸透と行政、市民、企業、銀行、学校等との協働の新たなまつりごとを基盤とし、そこから見出した様々な地域課題を地域内での資源と意思ある志金の循環を最大限図りながら、新たな生業の創出と南砺らしい地域循環共生圏の構築を目指します。

9【IT】

私たちは、通信技術等の進化を最大限活用し、南砺において最先端の情報の入手・交流が可能となる仕組み作りに注力し、次世代の教育・育成・交流を促進すると共に、防災等においてもレジリエントな地域づくりに努めてまいります。

10【遊び】

私たちは、一流の田舎南砺が世界に誇れる豊かなふるさとであることを体感し、将来を担う子どもたちがこれからも暮らしていきたいと思える地域となるよう、南砺の恵み、原風景、美しさを活かした楽しい取組みを皆で実践していきます。

令和元年10月27日

令和元年ローカルサミットNEXT in 南砺
実行委員長 島田優平

「一流の田舎」探る



自然との共生や循環を考え、達したことを機に、昨年からとうとう2008年に十勝（北「ローカルサミットNEXT」海道）から始まった「10回」として再開。南砺市では8年

南砺 ローカルサミット開幕

地域活性化の輪を全国に広げる「ローカルサミットNEXT」南砺が26日、南砺市の城端別院善徳寺で始まった。市民や県内外の有志者らが集まり、市が目指す「一流の田舎」のあるべき姿について議論する27日まで、「福光・城端支局長 湯浅昌子」

農業や芸術で意見交換

「一流の田舎」について考えたいミット

「一流の田舎」について考えたいミット

初日は市内外から約230人が参加。4人がそれぞれの観点から基調講演した。田中幹夫市長はSDG未来都市に選定されたことや市のエコビレッジ構想を紹介し「将来を見据え、今やるべきことを自分ごととして考えてほしい」と呼び掛けた。

日本総合研究所調査部主席 研究員の藤谷浩介さんは、田畑や水路など先人の力によって受け継がれたものこそかけがえない宝だと強調。「当たり前」ではなく「ありがたみ」。住む理由を堂々と説明できる場所「一流の田舎」と強調した。太田浩史大福寺住職、中井徳太郎環境省総合環境政策統括官も講演した。

農業や芸術、観光、地域包括ケアなど各分野で活躍する市民を中心に、10の分科会で意見交換も行った。

27日は市城端伝統芸能会館じょうほな座で、分科会の報告を踏まえた市民憲章の提案や市内視察ツアーなどがある。

令和元年10月27日 北日本新聞

「志民憲章」を提案 ローカルサミット閉会

地域活性化の輪を全国に広げる「ローカルサミットNEXT」南砺は最終日の27日、南砺市城端伝統芸能会館じょうほな座で、文化の継承や地域の誇りの醸成など10項目を盛り込んだ「南砺幸せなSDGs志民憲章」を田中幹夫市長に提案し、閉会した。

憲章は農業や芸術、地域包括ケア、地域教育など10分野ごとに開いた26日の分科会の内容を基に作った。27日は各分科会の内容について報告があり、市内外のまちづくり関係者や有識者ら10人が憲章について意見を交わす「大討論会」を実施。登壇者は「地域の価値を正しく理解してほしい」となどと意見を述べた。

島田優平実行委員長が憲章を朗読し、田中市長は「いろんな方々の意見を文章としていただいたことが素晴らしい。これを形にしていきたい」と述べた。

島田委員長は「自分たちの分らないことを補う上で、外部の力の大きさを感じた。南砺の市民憲章として発展すればいい」と期待した。



志民憲章を提案し閉幕したサミット

令和元年10月28日 北日本新聞



ローカルサミット

地域づくりの新たな羅針盤



報道ライブBBT

令和元年10月28日 富山テレビ
「報道ライブBBT」

令和元年ローカルサミットNEXTin南砺を終えて

世界に誇る「一流の田舎」を実現すべく、内外の志民が集い、熱く楽しく語り合った、令和元年ローカルサミットNEXTin南砺が、多くの参加者のご支援、ご協力により無事に終了したことに厚く御礼申し上げます。

南砺の地域づくりのファーストステップ（エコビレッジ構想）が、8年前のローカルサミットを機に始めましたが、そのセカンドステップの幕開けが、参加者一同で、基調講演～分科会～懇親会～分科会報告と大討論会を経て作成し、島田実行委員長により宣言、田中市長に手渡された「南砺幸せなSDGs志民憲章」であると確信します。

その後、過日、南砺市SDGs未来都市推進実施計画市民会議が開催され、実行委員会の主要メンバーも委員として参加され、2030年の南砺のあるべき姿を目指して、SDGsと地域づくりの関係、今後の具体的事業展開における市民、就中、小中高生等次世代との協働の仕方等を熱く語り合っています。そして、何よりも地域課題の解決が、地球課題の解決に直結し、それを繋ぐ共通言語がSDGsであるという共通認識を広めていくことが重要であると確認したところです。

この間、南砺では、エコビレッジ構想の具体化、地域包括医療ケア体制の確立、小規模多機能自治の仕組みの導入等を進め、更にそれらを支える「（公財）南砺幸せ未来基金」というお金の地域内循環エンジンを揃えることが出来ました。今後は、これらを、市民皆で、ダイナミックに活用し、地域づくりを深化させ、豊かな自然の再生と土徳文化の浸透により、老若男女皆が、健やかで美しい暮らしを誇りあえる、世界に誇るローカル社会を創生していくこと肝要であると強く思っており、その着実な進展に大いに期待しております。

また今回、参加者の多くの方々から、ローカルサミットNEXT開催の意義をご認識頂き、来年の愛媛・西条（2020年10月31日～11月1日開催予定）と再来年の酒田・庄内、更には3年後の倉敷・津山・おかやま、の開催表明が既に寄せられておりますことを、皆様にご報告させていただきます。

いずれにせよ、全国の志民の方々の活動によって、ローカルからの日本再生と地球規模のSDGsの実現が着実に進むことを祈念して、御礼の言葉とさせていただきます。

皆様にとって、2020年が素晴らしい飛躍の年になることを切に念じつつ、また愛媛・西条で10月末にお目にかかることを楽しみにしております。

ローカルサミット事務総長
吉澤保幸

■御礼（順不同・敬称略）

田中幹夫、中井徳太郎、藻谷浩介、川合声一、大原あかね、太田浩史、竹部俊恵、鈴木健介、梶谷俊介、得能基史、北川恵夢、高桑健、エコビレッジ部活動の生徒（南砺福野高校・南砺福光高校）、増田渉、大橋祐介、高桑里沙、小原治五右衛門、松井紀子、戸田鉄人、高坂博道、山田雄大、江尻美佐子、山崎正治、佐々木利幸、佐藤岳利、竹田健悟、小西和俊、松井昌美、木下三喜子、鬼頭秀一、室貴由輝、岡本真奈、竹原春佳、中山明美、清水昭、山中千花、早川萌、戸田恵理子、楠順子、中西邦康、中安俊之、周牧之、嶋田良太、松平隆輔、石田秀輝、山口美知子、河合幸樹、嶋田智志、浅谷一寛、松本八治、金平勲、永森茂、村松一、富田新之介、武部琢弥、北川智之、山瀬悦朗、後藤健市、福持良之介、浅田和幸、村田雄輔、奥田一宏、石村修子、中川裕子、松倉奈弓、南砺市観光協会、その他御協力いただきましたみなさま

■令和元年ローカルサミットNEXTin南砺実行委員会

島田優平、吉澤保幸、今井良治、松本久介、南眞司、吉田剛、川森純一、久保剛志、金兵佳朗、寺田俊一、藤田智晃、豊川諒、加藤修雅



令和元年10月27日
南砺市城端伝統芸能会館じょうはな座にて

